

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	東アジアジュニアワークショップ
<b>代表者名</b>	文学研究科特定准教授 安里和晃
<b>事業概要</b> (600 字程度)	<p>国際連携大学である台湾大学とソウル大学の、主に社会学部の学部生を対象とした研究報告ワークショップと、並行して実施するフィールドリサーチから構成される事業である。本学と台湾大学では、これをそれぞれの大学の授業として位置づけており、単位も認定している。海外の複数大学との国際合同授業は、日本の大学ではほとんど例のない新しい試みであるが、京都大学では特殊講義として事前準備のための授業も併せて開講している。事前授業では3か国の比較研究のサーベイを通じて基礎理解を深め、各自の関心に従ってリサーチをおこなう。さらに、これまでの経験から英語でのプレゼンテーション能力を向上させる必要があるため、発表演習を実施する。</p> <p>ワークショップでは、同世代の学生を前にして英語で自分の研究成果を発表し、英語で質疑応答を受け、各国の研究者からも英語でコメントを受けるため、報告者は大きな成長を遂げる。国際会議での報告のみならず、3か国の学生・教員が共同して実施するフィールドワークでは各国の社会学的視点に基づくリサーチがおこなわれるため、より深い社会への洞察力が涵養される。なお本事業は、グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、2009年から年に1度開催してきたもので、2013年からその活動を KUASU が引き継いでいる。</p>
<b>成果の概要</b> (800 字程度)	<p>2015 年度は京都大学から 5 名、ソウル大学から 5 名、国立台湾大学から 6 名の合計 16 名が参加した。従来通り、授業では3か国の比較研究のサーベイを通じて、台湾や韓国社会の基礎理解を深めた。また、ワークショップでの報告に向け、各自が問題を設定し、文献サーベイを実施し、プレゼンテーション能力を向上させるため、発表演習を行った。毎年のことだが、発表演習は8月の報告前日まで続いた。</p> <p>今年の受け入れは台湾大学が行った。例年通り、最初の3日間はフィールドリサーチが設定された。高齢社会におけるコミュニティケアを実施する社区を訪問したり、日本植民地時代の製糖工場や卸売り市場などを訪問。さらにはジェンダーをテーマとしたかつて使われた売春宿、また多文化をテーマとしたインドネシア人街と台北駅などを訪問した。きめ細かいリサーチの狙いがあり、台湾社会・文化・歴史を考察することができた。</p> <p>ワークショップについて、京都大学からの参加者4名のうち2名はシンガポールや韓国からの留学生であった。報告内容は性役割分業、福祉政策の国際比較（ひとり親世帯）、日本語教育、多文化政策についてであり、より多くの時間を費やして、大学院生や教員を交えた発表演習を実施した成果があり、例年よりはよい成果が残せたのではないかと考える。また、ワークショップのあと、論文執筆に関する相談などもあり、ワークショップへの参加がその後の学業にも大きく影響を受けたと考える。</p> <p>なお来年度は京都大学での開催となる。</p>